

令和三年版 祈祷のご案内

◎交通安全祈願こうつうあんぜんぎがん

交通事故は、ちょっとした不注意や心のゆるみから発生するものです。お祓いにより、車を清めて神さまのご加護をいただきます。新車や中古車を購入した折に、交通安全祈願を行い、無事故を祈りましょう。

◎初宮詣はつみやぎ

初宮詣は、赤ちゃんが授かったことへのお礼とお子様のすこやかな成長とを祈り、お子様を氏神さま地域をお守りくださる神さまにお目かけ、一人の人間として認めていただく行事です。参拜日は生後30日前後といわれていますが、赤ちゃんの健康や母親の産後の回復を見てご参拜ください。

◎安産祈願あんぜんぎがん

お母さんのおなかの中に赤ちゃんが宿ると、五ヶ月目の戌の日「帯祝い」が行われます。戌の日を選ぶのは、犬が安産であることにあやかるものです。平安無事に赤ちゃんが誕生するように祈りましょう。安産祈願の御祈祷（お祓い）は、戌の日「帯祝い」が出来るよう、「戌の日の前のご都合のいい日にお祓いを受けたいです」。

◎家内安全けい内あんぜん

これからの、「ご家族一人一人が健康で有意義に楽しく過ごされるよう、家内安全と諸災祓いをお祈りいたします。」ご家族おそろいになり、おいください。

◎健康・身上安全祈願けんこう じやうぜんあんぜんぎがん

健康が一番だと分かっていても、体に負担をかけ無理をすることも度々だと思えます。健康と身上の安全をお祈りし、神様のご加護をいただきます。

◎合格祈願ごうかくぎがん

受験生のこれまでの努力が実を結び志望校に合格できるように祈りましょう。☆祈禱を受けた方にお神札・お守り・合格えんぴつ・合格だるまを授与します。

◎縁結祈願えんむすびぎがん

良い縁があるように、また好きな人と縁が結べるようにといつの世も人々は願ってまいりました。神さまが良い縁を授けてくださるようにお祈りしましょう。☆祈禱を受けた方にお神札・縁結びお守り・縁結びみほぎ玉・お神酒を授与します。

◎子授け祈願こさづき ぎがん

「赤ちゃんが欲しいけれど、なかなか子宝に恵まれない」という悩みをお持ちの方は少なくありません。一人目が欲しいと願う人、二人目が欲しいと願う人など様々です。そんなときこそ、心静かに神さまにお祈りいたしましょう。

◎清祓きよはら

「最近、病気がちで…」や「ケガが多くて…」など、大きな病気やケガではないけれど、どうも調子が良くないと感じる方、また「最近良くない事が続く」などと感じる方がいます。神道ではこのような状態を「けがれ」といいます。清祓とは、この「けがれ」をお祓いにより取り除き清らかな普通の生活に戻すための祈禱のことです。

◎虫切り祈願

「虫切り祈願」とは、お子様の小児の疳（かん）の病、夜泣き、かんしゃくを起こさせる虫を封じお祓いのごことです。

◎水子慰霊祭みづこいらいさい

☆祈禱を受けた方にお神札・お守り・御神矢・お神酒を授与します。

◎商売繁盛・社業繁栄安全祈願しょうばいはんせい しゃぎょうはんえいあんぜんぎがん

この世に生まれることが出来なかった赤ちゃんの御霊（みたま）を慰めます。☆祈禱を受けた方にお神札・お神酒1升を授与します。

◎厄祓い・方位よけ・苦流祈願・延寿祭やくはらい ほうい くるゅうぎがん えんじゅさい

☆祈禱を受けた方にお神札・お守り・開運縁起物・お神酒を授与します。

【厄祓い(やくはらい)】

昔から「厄年」として特に気をつけなければならぬ年齢があります。これは、人生の大きな節目でもあり、お祓いを受けて無病息災と人生の弥栄を祈り、謙虚な気持ちで日々の生活を送ります。



☆祈禱を受けた方にお神札・お守り開運厄除縁起物お神酒を授与します。

男		女	
前厄	41歳(昭和56年生)	前厄	32歳(平成2年生)
本厄	42歳(昭和55年生)	本厄	33歳(平成元年生)
後厄	43歳(昭和54年生)	後厄	34歳(昭和63年生)
厄年	25歳(平成9年生)	厄年	19歳(平成15年生)
		厄年	37歳(昭和60年生)

【延寿祭(えんじゅさい)】

延寿祭は、年祝いとも言われ、これからの人生を健康で楽しく過ごせるように、長寿を祈りお祝いするものです。ご家族の方が長寿であるということは、おめでたいことです。日頃のご加護に感謝し、ますます元気で長生きできるよう祈願します。

☆祈禱を受けた方にお神札・お守り開運縁起物・お神酒を授与します。

還暦(かんれき)	61歳(昭和36年生)
古希(こき)	70歳(昭和27年生)
喜寿(きじゅ)	77歳(昭和20年生)
傘寿(さんじゅ)	80歳(昭和17年生)
米寿(べいじゅ)	88歳(昭和9年生)

【苦流(くりゅう)祈願】

よく年齢に9が付く年はよくないといわれますが、これをお祓いするのが苦流祈願で、「苦(く)を流し「十(じゅう)」にして充実した人生を送れるように、また、何事も無く年齢を重ねられるようにと祈願するものです。

☆祈禱を受けた方にお神札・お守り苦流祈願守護弓矢・お神酒を授与します。

【方位よけ(八方よけ・鬼門よけ・病門よけ)】

方位よけとは、年まわりが悪く「やることなすことうまくいかない」と言われているもので、方位よけのお祓いにより、その一切の災厄とさわりを取り除くものです。☆祈禱を受けた方にお神札・お守り・方位よけ縁起物・お神酒を授与します。



八方よけ(はっぽうよけ)		鬼門よけ(きもんよけ)		病門よけ(びょうもんよけ)	
73歳(昭和24年生)	37歳(昭和60年生)	76歳(昭和21年生)	40歳(昭和57年生)	79歳(昭和18年生)	43歳(昭和54年生)
64歳(昭和33年生)	28歳(平成6年生)	67歳(昭和30年生)	31歳(平成3年生)	70歳(昭和27年生)	34歳(昭和63年生)
55歳(昭和42年生)	19歳(平成15年生)	58歳(昭和39年生)	22歳(平成12年生)	61歳(昭和36年生)	25歳(平成9年生)
46歳(昭和51年生)	10歳(平成24年生)	49歳(昭和48年生)	13歳(平成21年生)	52歳(昭和45年生)	16歳(平成18年生)

79歳(昭和18年生)	49歳(昭和48年生)
69歳(昭和28年生)	39歳(昭和58年生)
59歳(昭和38年生)	29歳(平成5年生)

～ みなさまのところへ伺ってのお祓い ～

《住まいに関するお祓い》

地鎮祭、新宅祭など、神職がお伺いしてご要望に応じた祭典を行ないます。

解体清祓（かいたいきよはらい）～解体のお祓い～

古くなった建物を壊すにあたって行われるお祓いが「解体清祓」です。建物を祓い清め、家屋の守り神に対してこれまで長年にわたり、何事もなく無事に過ごさせていただいた感謝の気持ちを表すとともに、解体工事がすみやかに無事終了するように祈願します。

※施主が準備するものは、お供え物とお初穂です（詳細は下記）。そのほかは神社で準備します。

地鎮祭（じちんさい）

地鎮祭は、建物の新築に際して土地の神さまをお呼びして工事の安全を祈願するお祓いです。大地は、小さな虫から動物・草木までも生かす大きな力を持っています。その土地を人間が使うのですから、その恵みに感謝することが大切なのです。土地の神々に敬意をはらい、使用の許しを得て工事の安全を祈願いたします。

※建主が準備するものは、お供え物とお初穂（詳細は下記）、そして川砂をバケツに2、3杯（建設会社・工務店にお願いしてください）です。そのほかは神社で準備します。



新宅祭（しんたくさい）

新宅祭は、完成した建物を祓い清め、工事が無事に終わり、立派に完成したことを神さまに奉告し、家庭の安全を祈ります。また、この際に神棚を設けてこれから末永く家庭をお守りいただくように神さまをお祭りすることが大切です。

※建主が準備するものは、

- 1、神棚(家庭用の社殿)と神具一式（鏡・神立て・お供え用の皿など）
- 2、お供え物とお初穂です（詳細は下記）。お神札や祭壇などは、神社で準備します。

《みなさまが準備するもの》

【お供え物一式（神饌：しんせん）】

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| ①米：1升 | ⑤野菜：3種類（色どりよく大皿にのる程度） |
| ②酒：1升又は2升（箱入りのし付き） | ⑥果物：3種類（色どりよく大皿にのる程度） |
| ③魚：尾頭付きの魚（大きい魚は1尾、小さい魚は2・3尾） | ⑦塩：小皿一杯、水：コップ一杯 |
| ④海藻：昆布又はわかめ1袋 | |

※事情によりお供え物を準備できない場合は神社でも用意できます。その場合は、お供え物代5千円です。

※神社がお供え物を準備する場合でも、お酒は皆様から神さまへのお供え物として欠くことのできないものですのでご準備ください。なお、お酒は1升又は2升（箱入りのし付き）でご準備をお願いします。

【お初穂（祈禱料）】

個人2万円より、会社・団体3万円より申し受けます。別に、お供え物代5千円（神社でお供え物を準備する場合）

《神社が準備するもの》

祭壇一式、その他お祓いに必要なものすべて神社側で持参します。また、お車での送り迎え（送迎）は必要ありません。お約束の時間の10分前から15分前に現地に直接伺います。

《鹿嶋神社参拝のしおり》

《御 祭 神》武甕槌命（たけみかづちのみこと）

《御 由 緒》宝亀年間（770～780）光仁天皇の御代にこの地に祭られ、弘仁2年（811年）坂上田村麻呂が東夷征伐の際、改めて常陸国鹿嶋大明神を勧請した神社で、白河地方の総鎮守とし、武の神、白河以北を守る神として、戦勝を祈願したと言われています。延喜式神名帳（成立927年）に残る式内社でもあります。その後も歴代城主の尊崇あつく、城主自ら奉幣、参籠し、祭田や社殿の寄進もありました。文明13年（1481年）時の城主小峯政朝が神社において一万句奉納の連歌会をおこないました。著名の連歌師、宗祇が西国からはるばるこの地にやって来たのも、この会に出るためでした。このことは、当時の白河地方の文化が相当高い水準であったことを示しています。文化3年（1783年）松平大和守により『鹿嶋大神宮』の額（白河市歴史民俗資料館寄託）が、また大正14年（1925年）海軍元帥東郷平八郎により『鹿嶋宮』の額が奉納されています。この額は今も神社の正面に掲げられています。寛政7年（1796年）には『楯無し（たてなし）のよるい』（市文化財）も奉納されています。明治43年（1910年）不幸にして火災にあい、建造物、備品のほとんどを消失しましたが、大正元年（1912年）再建され現在に至っています。また、古来より歌枕にある「転寝の森（うたたねのもり）」は、当神社の飛地境内で、東へ約三百メートルのところにあります。

令和3年版

祈禱のご案内



【祈禱受付時間】

午前9時～午後4時

※祈禱受付時間内でも不在の場合がありますので、電話でご確認の上おいでください。

特に、平日にお祓いを希望される方は、ご予約の上おいでください。

おはつほ 【御初穂(祈禱料)について】

- 厄祓い・交通安全祈願・初宮詣・安産祈願など、
個人のご祈願は、1祈願5,000円です。
- 水子慰霊祭は、1万円です(要予約)。
- 商売繁盛・社業繁栄祈願など、
会社のご祈願は、2万円～3万円です。
- 神社で行う工事安全祈願は、2万円～3万円です。

白河地方の総氏神様
鹿嶋神社
TEL(0248)23-3079



<http://www.kashimajinja.jp>